

准教授  
笠 修彰

## ■ 学歴

---

1. 2007年 西九州大学大学院健康福祉学研究科健康福祉学専攻修士課程修了

## ■ 学位

---

1. 修士（健康福祉学）

## ■ 研究分野

---

1. 社会福祉学
- 2.
- 3.

## ■ 研究キーワード

---

1. 精神保健福祉
2. 障害者福祉
3. ソーシャルワーク

## ■ 研究課題

---

1. 精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究
2. 子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究
3. 保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

## ■ 担当授業科目

---

1. 子ども家庭福祉（前期）必須
2. 社会的養護Ⅰ（前期）選択
3. 子ども家庭支援論（前期）選択
4. 社会福祉（後期）選択
5. 社会的養護Ⅱ（後期）選択
6. 保育実習指導Ⅰ（通年）選択
7. 保育実習指導Ⅲ（通年）選択
8. 子ども学基礎演習（通年）必須
9. 子ども学特別演習（通年）必須
10. 施設実習Ⅰ（学外実習）
11. 施設実習Ⅱ（学外実習）
12. 精神障害リハビリテーション論（前期）（福祉学科）選択
13. ソーシャルワークの理論と方法（専門）B（後期）（福祉学科）選択  
ソーシャルワーク演習（専門）B（通年）（福祉学科）選択

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p><b>授業科目名【子ども家庭福祉】</b></p> <p>保育科 1 年前期に開講される科目である。入学当初は、保育者が福祉を学ぶ必要性を理解できずにいる学生も少なくないため、保育者が福祉を学ぶ意義等について繰り返し説明するなどして、受講の動機づけを行うよう心掛けた。また、学生の学修準備性を高めること、学習状況を確認することを目的に、予習プリントの配布と小テストを実施した。</p>
2.	<p><b>授業科目名【社会的養護Ⅰ】</b></p> <p>社会的養護に関する制度・施策、子どもの人権擁護や自立支援、社会的養護の現状と課題など、社会的養護の担い手である保育士に求められる知識の獲得を目指し授業を行った。また、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるように、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。</p>
3.	<p><b>授業科目名【子ども家庭支援論】</b></p> <p>授業では、毎回教員が作成したレジュメを配布し、重要なキーワード等を穴埋め方式にすることでポイントが押さえられるよう工夫した。また、講義内容を実践に引き付けて理解することができるように、適宜事例を紹介し、支援方法等を検討する機会を設けた。学生の理解度の把握と予復習を促すため、單元ごとに小テストを実施した。</p>
4.	<p><b>授業科目名【社会福祉】</b></p> <p>社会福祉が私たちの生活に密接にかかわるものであることへの理解を促すとともに、福祉の専門職である保育士に求められる知識の獲得に向けて、適宜、具体的な事例を用い、現場実践に引き付けて学びを得ることができるよう心掛けた。また授業開始時に小テストを実施し、予習、復習に対する意識の向上と学習状況の把握につとめた。</p>
5.	<p><b>授業科目名【社会的養護Ⅱ】</b></p> <p>社会的養護の担い手である保育士に求められる基本的な知識の獲得を目指すとともに、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう、事例検討の機会を多く取り入れるなどの工夫をした。</p>
6.	<p><b>授業科目名【保育実習指導Ⅰ】</b></p> <p>保育士資格取得に必要な実習に向けて、様々な児童福祉施設の特徴を理解すること、授業で学んだことを実際の実習現場で活用できること等を目指し、授業を行った。また、自己課題シートや自己課題振り返りシートを用いることで、実習を通して自分の課題に気づき、次の実習に向けた改善ができるよう工夫した。</p>
7.	<p><b>授業科目名【保育実習指導Ⅲ】</b></p> <p>施設実習の実施に向けて、自らの課題を明確にし、課題解決に向けて具体的な取り組みができるよう自己課題シートや自己課題振り返りシートを活用した。また、学生自身が自らの課題を多面的に捉え解決に向けられるよう、学生同士のグループディスカッションの実施や実習事後面談でのフィードバック等を行った。</p>
8.	<p><b>授業科目名【子ども学基礎演習】</b></p>

	子ども学基礎演習では、子どもや保育に対する理解を体験を通して深め、将来の保育者としての実践力を身に付けることを目的としている。保育者に必要とされる基本的な力を養うため、丁寧な個別対応を心掛けた。また、学生が主体的に考え行動できるよう意識的な働きかけを行った。
9.	<p>授業科目名【子ども学特別演習】</p> <p>保育と福祉の関連や保育者に必要な福祉的視点を養うことをねらいとして、福祉に関する知識を深めるための講義、障害児向けのレクリエーション教材の作成、卒業生による職業理解講座等を行った。また、学生自身が責任感を持ち、能動的に活動できるよう学生主体のゼミ運営を心掛けた。</p>
10.	<p>授業科目名【精神障害リハビリテーション論】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。</p>
11.	<p>授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法（専門）B】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格にかかる科目であるため、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めることを心掛けた。また、適宜、事例を紹介するなどして、精神保健福祉士の役割や精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの展開について実践的理解が深まるよう工夫した。学生の授業理解度を把握するため、適宜リアクションペーパーを活用し、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。</p>
12.	<p>授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）B】</p> <p>精神障害者の生活や生活上の困難を把握し、精神保健福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術を実践的に習得することができるよう、事例検討を中心とした演習を行った。また、事例検討を行うにあたって、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、さまざまな視点で事例を捉え、協働性を意識して取り組むことができるよう工夫した。</p>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2008年7月～現在に至る	日本社会福祉学会	会員
2.	2016年9月～現在に至る	日本保育学会	会員
3.			

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2008年4月～現在に至る	日本精神保健福祉士協会	会員
2.	2009年6月～現在に至る	福岡県精神保健福祉士協会	理事
3.	2015年4月～現在に至る	北九州地区精神保健福祉士協会	会員
4.	2016年4月～現在に至る	「保育福祉小六法」(株) みらい	編集委員
5.	2017年9月～現在に至る	日本社会福祉士会	会員

6.	2017年9月～現在に至る	福岡県社会福祉士会	会員
----	---------------	-----------	----

■ **学内における活動等（役職、委員、学生支援など）**

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月1日～2024年3月 31日	学生募集委員会	副委員長
2.	2023年4月1日～2024年3月 31日	教育経費予算配分委員会	委員長
3.	2023年4月1日～2024年3月 31日	キャンパス・ハラスメント相談 員	相談員